



大山蒜山地域ビジョン



1. ビジョン策定の目的

- 大山隠岐国立公園「大山蒜山地域」は、豊かな生態系と我が国を代表する傑出した自然景観を有する国立公園である。また、古くから山岳信仰が盛んであり、多くの人々に利用されてきた歴史がある。
- しかし近年、「生態系及び生物多様性の劣化」と「利用者の減少」の課題が顕在化しつつある。2つの課題の「負の連鎖」が招く、利用者の自然環境保全に対するインセンティブの低下が懸念されている。「負の連鎖」を断ち切って「正の連鎖」を構築し、地域の優れた自然と歴史・文化を将来に継承する必要がある。
- 平成27年2月に、関係団体・機関からなる「大山蒜山地域連絡協議会」を設立した。本ビジョンは、同協議会が、大山を取り囲むように位置する大山蒜山地域の特色ある5つの地域の個性をさらに磨きあげ、それらの取組や実施主体の連携を図ることで、地域と地域、人と人を積極的につなげていくことを目的として策定した。

2. 大山蒜山地域ビジョン(骨子)

大山蒜山地域の特徴・現状・課題

【特徴】個性光る特色ある5つの地域

- 大山地域： 西日本最大のブナ林・民間 ボランティアによる多様な活動・山岳信仰
- 蒜山地域： 伝統的な火入れによる草原景観と生態系の維持・霧による幻想的な風景
- 船上山地域： 大山滝・屏風岩・後醍醐天皇執政の地としての歴史ドラマ
- 毛無山地域： 毛無山のパノラマ眺望・日本海気候と太平洋気候の合流点・多様な生態系
- 三徳山地域： 照葉樹林と落葉広葉樹林の連続した自然林・希少種の宝庫・修験道

【キーワード】 多種多様な自然景観・歴史・活動団体

【現状・課題】

- 自然環境：生態系及び生物多様性の劣化が進行
(希少種、湿原・草原、森林、ナラ枯れ・マツ枯れ、外来生物、野生鳥獣、後継者)
- 利用の質：地域資源が十分に活用されていない
(通過型の利用形態、歴史資源、ガイドの連携、地域ルール・マナー)
- 利用環境：利用施設の整備・管理が十分ではない
(車道、歩道、外国人観光客、ユニバーサルデザイン、展望台)
- 連携：利用拠点の分断による一体性の欠如
(周遊性の低下、地域の分断、連続性の希薄)
- 協働：各地区間の体制が十分ではない
(一体性、統一的な方針、連携体制、連絡・調整機能)

理 念

大山蒜山地域の新たな魅力の創生に向けて 「～つなぐ・つながる～ 地域力を活かした多様性あふれる公園づくり」

- かつて山岳信仰を通じ、大山から四方に延びる「大山道(だいせんみち)」により、大山周辺の地域と地域が結ばれ、人と人が出会いつながり合って、大山蒜山地域の歴史と文化が形成されてきたが、現代ではそのつながりが見えにくくなっている。
- 現代の大山蒜山地域が抱える「生態系及び生物多様性の劣化」、「利用者の減少」という2つの大きな課題に対応するためには、希薄になった地域と人とのつながりを再起し、連携の再構築を図ることが必要である。
- 連携により各地がそれぞれの個性を磨き、さらに地域が結ぶ沿線の魅力も同時に高めていくことで、大山蒜山地域全体の一体的な新たな魅力の創生を目指す。

基本方針・対策の方向性

基本方針	「守る」 生態系及び生物多様性の 保全・復元・維持を図る	「活用する」 地域資源を活かした 質の高い利用を推進する	「もてなす」 快適な利用環境の整備を推進する
対策の方向性	希少種保全・保護地域の適切な管理／湿原・草原の保全／人工林管理・自生種・天然林への樹種転換／ナラ枯れ・マツ枯れ対策／外来生物対策／野生生物対策／保全管理に関わる担い手育成及び技術講習会の開催 ほか	滞在型の利用／周遊型の利用／地域資源の発掘／エコツーリズムの推進・ガイドの連携及び育成／地域ルール・マナーの策定 ほか	車道／歩道／インバウンド対応／ユニバーサルデザイン／視点場抽出・景観回復 ほか

各主体の役割

国、地方公共団体、関係団体、学識経験者、各種協議会、NPO法人、民間企業、地域の事業者

3. ビジョン策定後

- ビジョンの実現に向けて、各地域で各主体が協働・連携しながら取組を実行する。